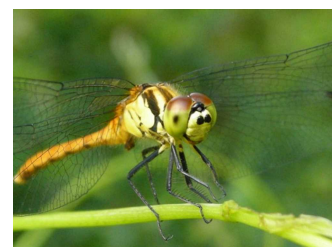


赤く変わる

1. マユタテアカネ

赤とんぼと呼ばれる仲間でも小型に入る、繊細な感じがするアカネです。頭部を正面から見ると、お公家さんの眉に似た黒い部分があることからマユタテと呼ばれています。少し薄暗い感じがする場所を好み、打吹山の遊歩道沿いでも出会うことができます。草や木に止まっていて、驚くと飛び立ちますが、すぐ近くに止まったり元の場所に帰ってきますので、顔を見れば確認は容易です。7月に見られる羽化直後は、写真のように橙色と黒の地味な色合いですが、9月になると、雄は腹部だけが真っ赤になります。赤とんぼの代表のアキアカネより赤く目立ちます。雌はそのままのものが大部分ですが、少し赤くなる個体もあります。



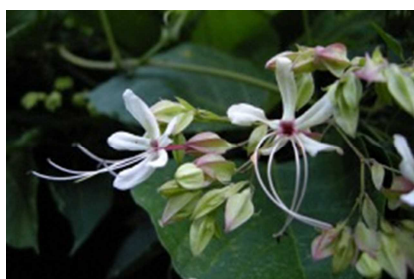
羽化直後のマユタテアカネ



赤くなった雄のマユタテアカネ

トンボの幼虫ヤゴは水中生活ですので、川や池のある場所でないと思いがちですが、多くのトンボは羽化後に水辺を離れて山地や林で生活をします。昆虫などを食べ、成熟するまで過ごすのです。打吹山ではヤゴのいる池や湿地、溝がある打吹公園や長谷寺周辺、峠の展望台で見ることが多いのですが、域外から来るものもかなりあるようです。見つかる羽化殻以上の数がいます。成熟して赤くなった雄と地味な雌が連結し、池に産卵するのを見ることがもできます。

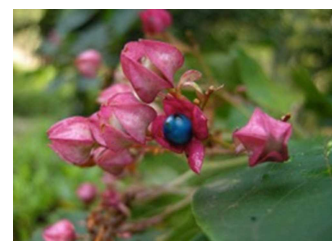
2. クサギの実



クサギの花

葉に独特の匂いがあるこの小高木は、年に2度目立つ時があります。最初は8月の開花期、2度目は果実が熟した時です。

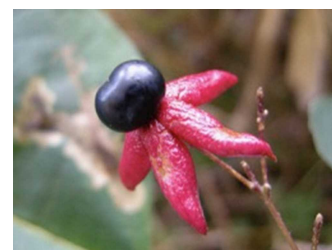
大きいだけで特徴のない葉をつけた木ですが、夏には目立つ花が樹冠を覆います。ほおずき提灯のように膨らんだ萼(がく)が緑から赤みを帯びると、花筒が長く伸び出します。その先に白い5つに分かれた花冠が開き、さらに長いおしべが4



赤紫色の萼に包まれた果実

本伸びています。甘い匂いを出すためか、クロアゲハやモンキアゲハなどの大型の黒いアゲハが次々と吸蜜にくる人気商品です。

秋も深まる落葉の前、果実のようにみえていた赤紫色の萼が5枚に別れて星のように開くと、中心に丸い青紫色の、本当の果実が出てきます。萼は花卉のように見え、赤と光沢のある濃藍のコントラストがきれいです。果実は果汁に満ち、内部には種子が4個あります。鳥が食べて種子を散布してくれるように、必要な条件を演出しているのです。ヒヨドリやジョウビタキの他にどんな鳥が食べに来ているのでしょうか。



クサギの果実

散布地は広範囲にわたるのでしょうが、クサギの生育場所は日当たりの良い、開けて水分も適当にある場所です。生育は早いものの寿命は短く、太い木はありません。その代わり、伐採されてもその元株からすぐ芽が立ち、あるいは根から不定芽が伸び出していきます。遊歩道沿いの木ということになります。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2017)